



追悼 山本卓眞理事長



題字揮毫・故 瀬島龍三氏

第 25 号

叙従三位・勲一等瑞宝章 山本卓眞
お別れの会 平成24年3月9日(金)12時~13時
帝国ホテル本館2階「孔雀の間」

公益財団法人 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会

〒102-0073 千代田区九段北3-1-1
靖国神社遊就館内・地階

電話 03 (6380) 8943
FAX 03 (6380) 8952

http://homepage2.nifty.com/ireikyuu

振替口座 00140-6-334930



編集人 飯田正能
発行人 柚木文夫
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

目次

追悼 山本卓眞理事長	1
大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭のご案内	1
山本卓眞理事長を偲んで	2
硫黄島遺骨帰還第2回特別派遣に参加して	6
東京大空襲と硫黄島	8
ソロモン平和慰霊公苑再整備記念追悼式 挙行のご報告	10
協議会参加団体の紹介 「NPO法人国民保護協力会」	12
硫黄島からのJYMA派遣団員の手紙	14
事務局からの報告等	14
協議会参加各団体の本年度慰霊行事予定	16

大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭のご案内

当協議会は、当協議会参加諸団体と共に、平成24年度の「大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭」を左記のとおり執り行います。

記

一 時期 平成24年7月7日(土)

二 場所 靖国神社

三 次第 ① 式典・昇殿参拝 12時~
② 直会 13時30分 拜殿・御本殿
③ 参加費 2000円
④ 式典・昇殿参拝(玉串料) 5000円

四 参加費 2000円

① 直会 5000円

② 参加費

③ 式典・昇殿参拝(玉串料)

④ 直会

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

会員の皆様には、本誌同封の払込取扱票による参加費ご納入をもって、ご参加申込みに替えさせていただきます。

会員以外の方は、当協議会事務局までお問い合わせください。

〒102-0073 千代田区九段北3-1-1

靖国神社遊就館内・地階

(公財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会事務局

電話 03-6380-8943

FAX 03-6380-8952

Eメール bck05197@nifty.com

山本卓眞理事長を偲んで

○山本卓眞理事長の御逝去を悼む

公益財団法人偕行社理事・前副会長

副理事長 齋須 重一

内閣総理大臣の「公益認定書」の交付を受け、即日登記を完了し、めでたく公益財団法人として発足することになりましたが、その間担当の委員、職員等を指導、統括された山本会長の御尽力、御労苦に改めて感謝申し上げる次第であります。

昨年未緊急入院のお知らせを受け、ご案じ申し上げておりましたが、その後持ち直されて新年を迎えられ、一安心しておりましたところ、今年1月17日、突然の御訃報に接し、唯々残念に存しております。御遺族様方の御意向により、内々に御葬儀もお済ませとのこと、遅ればせながら改めて御冥福をお祈り申し上げます。

想えば、当協議会の構成団体であります偕行社が、山本卓眞氏を会長に迎えました時、偕行社は丁度、陸上自衛隊幹部OBを受け入れて、その存続の基盤作りの最中でもありました。更に偕行社は夙に、新公益法人への移行を目指して準備を進め、新法人制度発足草々の、平成20年12月1日の初申請以来、諸種の不備を改め、体質の改善を図るなど、紆余曲折を経て、平成22年10月再申請、翌23年1月21日、公益認定等委員会から「認定」に関する答申が出されたことに基づき、2月1日、

連の行った侵略戦争を「戦勝」と正当化するような愚行を止め、第2次世界大戦終結日に当たって歴史を顧みるならば、ソ連の行為を正しく認識し、真に世界の恒久平和に資する反省を国民教育と外交政策に反映してくれることを望む。「ロシアが今日改めて「第2次大戦終結の日」を祝うならば、我々も改めて「ソ連の侵略」が如何に非道なものであったかを世界の良識に向けて糾弾する。1945年8月9日以降のソ連の行動は、近代国家の戦争の名に値しない国際法違反の「犯罪行為」であり、9月2日は、良識あるロシア人・政府にとって深く反省すべき汚辱の日である。」として、烈々たる気迫を込めて論断されました。また「史実を世界に発信する会」を通じて、その英訳文を世界に発信するなど、正々堂々、信念を持って活動された。

隊の無条件降伏を認め、15日に戦闘行為を停止して以来、日本軍は不法攻撃して来たソ連軍に対する防衛戦闘以外には連合軍に一発の発砲もなさず、まだ相当の戦力を残していたにも拘わらず、国内も外地も整齐と剣を置いたのに対して、ソ連は国際法上からも国際正義の観点からも何等理由のない侵略を継続し、歴史の上からソ連に所属する根拠の全くない千島列島まで横領し、更に北海道をも窺う野心を、遅ま

きながらのアメリカの反対もあって停止した。我々はロシアの現体制が、ソ

故山本卓眞名譽会長が当社社長に就任されたのは昭和56年、私は前年に入社、とても近づく機会などない方と思っていました。

社長就任時に語られた「若い人をお願いしたいのは『志を持って』ということです。」「サラリーマンの喜びというのは、志を立ててそれを達成することです。これが人間の充実感だと思います。」というメッセージは、その凛々しい姿とともに、企業人として出発した私たちに希望を与えるものでした。

平成2年社長退任時までに、事業の国際化を図り、通信、情報処理部門だけでなく、オフィスコンピュータ、電子デバイスへ業務を拡大し、売上高は6900億円から3・7倍の2兆5千億円に達する発展を遂げました。特に57年から始まる互換OSに関するIBM社との知的財産権仲裁の件では、名譽会長が先頭に立ち、開発者側の利益だけでなく、ユーザーの視点も含めた広く本質的な議論を堂々と主張されました。

我々は、山本卓眞理事長の御遺志を継いで、当協議会の目的である、大東亜戦争の真の意義を明らかにし、全戦没者の慰霊顕彰業務に一層の努力を傾注することをお誓い申し上げて、追悼の言葉といたします。

○故山本卓眞名譽会長の思い出

富士通株式会社取締役執行役員

副社長 藤田 正美

その後、平成12年12月より5年半、秘書室長として名譽会長の近くで仕事をさせていただく機会を得ました。当時名譽会長は、当社の業務からは一線を画し、貴団体をはじめとして、靖國神社崇敬者総代、偕行社社長、国際ユニ

ヴァーサルデザイン協議会会長等々社外での役割を主とし、既に70歳を超えていられたが、毎日会社に出勤し、精力的に業務をこなされていきました。

一番驚かされたのは、公私の区別を峻別される点です。ある日私に公衆電話の位置を聞かれるので、理由をお尋ねすると、自宅へ電話するためとのこと。社内親睦のゴルフは、たとえ安全確保のため車をお使いくださいと申し上げても、電車で行かれる。社外の団体からの報酬は、寄付の形で還元される等々。今日企業コンプライアンスが問題視されていますが、一番の基本は「私」の部分の自制し、国家、社会、

会社を想う経営者一人一人の志の高さだと思います。名誉会長は小さな日々の行動の一つ一つがその規律に従っていました。

昨年、当社創立75周年を記念する社史を完成することができ、名誉会長の社長時代までは、ほぼ完全な形でまとめることができました。その完成とほぼ同時に亡くなられたのが残念でなりません。

この度、「お別れの会」の事務局長を務めることになりました。生前の付き合ひの広さから多くの方から参列希望の連絡をいただいております。生前の御意志を尊重し、質素を旨とした

会ではありますが、多くの方々ともにお人柄を偲び、御冥福をお祈りしたいと思います。

○山本卓眞氏を偲んで

同台経済懇話会

専務副代表幹事 野地 二見

平成24年2月21日、第38回同台経済懇話会会員総会において、私共は、山本卓眞さんの長年の御功績に謝するたため、「名誉会長」の称号を贈り、「陸軍士官学校校歌」と「海行かば」でお別れの会を挙行した。

山本さんは、平成3年に、故瀬島龍三氏に代わり第二代の代表幹事に就任されて以来、生き残った陸軍将校の責任を全うし、戦後の日本の復興の中核となる経済団体であるために、常に会員を叱咤激励し、真の日本の魂と誇りを持ち続けて、最後まで惜しみなく力を注がれた。

山本さんは明治以来の陸軍軍人の家に生まれ育った。

父上の山本吉郎少将は、熊本幼年学校出身の陸軍士官学校29期、兵科は騎兵、ドイツ留学後、熊幼、広幼のドイツ語教官を務められ、戦中は満洲などで師団参謀長をなさった。

山本さんは生前、同台経済懇話会の講演で、当時の早稲田大学英文学部の

留守晴夫教授の語られた硫黄島の栗林忠道中将論に大変共鳴をされ、ご自身の講演で、何度も引用された。それは「日本陸軍における『知る者』を排除する風潮は、日本文化の失点でもある」という論であった。

私は、この栗林中将論に深く興味を示された山本さんのお心の裡には、中将とたった2期違いの騎兵科であり、長い米国留学の経験があつた中将と同様に、ドイツ留学により海外事情に明るかつたはずの父上のその後の生き方を、幼い時から何かに秘めておられるものがあつたのではないかと推測している。

兄上の山本卓美少佐（特攻戦死後二期、兵科は航空で、昭和19年12月7日にレイテ湾にて、特別攻撃隊八紘隊長として壮絶な戦死を遂げられた。

10年ぐらい前だったが、山本さんに頼まれて、仙幼出身の陸士56期の方々を招き、兄の卓美さんの当時の話をしていたことがあった。その時のその同期の方々の思い出に、聞き入つておられた眼差しが今でも目に浮かぶ。

また、私が入手したレイテ湾の特攻隊のビデオをご覧になり、同台の事務所に来られ、目に涙を溜めながら、画面をじつと凝視しておられたお顔も忘

れられない。

卓眞さん御本人も名古屋幼年学校、陸士58期として航空士官学校を卒業されて満洲に在られた。ソ連軍への特攻の前日に終戦の詔勅が出された。その時の部隊長からの「どんな事があつても、生き抜いて祖国に帰り、生きて祖国の再建に尽くせ」との訓示を胸に刻み、「この訓示は今でも生きている」と何時も言っておられた。

特に志を共有していた同台経済懇話会では「私達は最後の瞬間まで祖国の復興の為命を懸けて尽くしましょう」と、常に会員を激励されていた。

山本さんが富士通の社長、会長として、社会貢献第一の清廉な経営者として素晴らしい企業文化を作られたことは勿論である。特に会長となられてからは、社外活動として、日本ユネスコ協会連盟の会長や、国策研究会の会長として、国家の為の諸事業の任を見事に果たされた。また、瀬島さんの志を継いで、特攻隊戦没者慰霊顕彰会の会長を引き受け、自らの健康も顧みず、懸命に奉仕された。

山本さんは自分が命懸けで復興に尽くした故国日本が、戦後の占領政策によって美しい精神文化を失いつつあることを深く憂慮されていた。そして、その回復の為にありとあらゆる機会を

使い、「自主憲法の制定」や「教育改革」などの必要性を唱え、「国家観を捨て」と、訴え続けられた。

更に、日本陸軍の魂を受け継ぐ偕行社の会長・理事長の任を引き受けられ、新しい日本の武士の文化を育てようと尽力された。日本の安全保障、防衛政策についても、軍事を知らずに口先だけで「平和」を連呼する政治家や官僚に対し、厳しい批判もされ、後に続く自衛隊の人々には、その士魂を伝えようと全国を巡られた。

平成13年の防衛大学の卒業式の祝辞でも、建武の中興の際の楠木正成の話を例に「大局観や戦略眼もなく、軍事への理解もない文民統制は亡国の悲劇を齎す」と指摘され、また、インパール作戦の名将、宮崎繁三郎中将の平素の教えである「不断の努力、要点的把握」の精神を以て、軍事革命と技術革新に関する研鑽を続けるように、と要望された。

このような素晴らしい、その名の通り「真」の日本人であり、武人であられた山本さんと強い絆で結ばれ、その崇高な志を共にすることができた我々は本当に幸せであった。

我々も命を尽くし、誠を尽くして、山本さんの目指された「真の日本の復興」を叶える為に、生きて行こうでは

ありませんか。

特攻の兄を慕ひて生き抜きし

真の士今天翔る

○山本卓眞君の追悼記

陸士58期 日高 誠

「巨星落つー」、去る1月17日、肺炎のため逝去された、と聞いた時の驚きと寂寥の思いは今も消えない。誠に惜しい男を失ったものである。富士通退職後は、偕行社をはじめ多くの公益財団法人や社団法人の会長・副会長を務め、寧日なしの毎日であった。

福岡県の出身であるが、熊本市に生まれ、名古屋陸軍幼年学校から陸軍予科士官学校に進み、陸軍航空士官学校を昭和20年3月に卒業した58期生。戦時時代には日本初のスーパーコンピューターを開発し、昭和56年社長、平成2年会長、富士通「中興の祖」と言われた。兄上の卓美氏は、陸士56期で、同じく戦機操縦者(二式双発襲撃機)。特攻隊長として勤皇隊(八紘部隊第八隊)12機を率い、昭和19年10月18日福岡県原ノ町飛行場から出撃し、九州、沖縄、台湾を経て、比島に到着。12月

4日、機首を改修して爆薬を装着し、威力を強化せんと希望したが、その暇なく、12月6日機首に百キロ爆弾を装着して出撃し、12月7日朝、レイテ島東湾、オルモック沖の敵艦船に突入、戦死された。この状況は、彼が会長を務めた現公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会の会報「特攻」第86号(平成23年2月発行)に、兄上の日記が登載されている。

平成17年、偕行社の会長に就任し、先輩期の中には後継問題で終末も止むなし等の意見もあったが、自衛隊の幹部に託すべきである、との彼の意見と説得力は誠に粘り強く、真摯であり、具体的に理事や副理事長に自衛隊幹部OBを任用して後輩を育て、去る23年夏には、10年以上若返って防大1期の志摩篤氏を理事長にして交代された。ここ3年余りの新公益財団法人への移行申請に際しては、内閣府の担当者には、偕行社は旧陸軍将校の同窓会ではないか等の誹りを受けながら、防衛問題・安全保障問題等に関する研究と普及のため等の組織であり、海外にも発信している旨の説明を繰り返して認定されたものであり、その間の理事、評議員等に対する指導は見事であった。私は、58期生の中央幹事会に参画しているの、月に1回の幹事会で、彼

の警咳に接する機会があったが、その卓見に畏敬の念を抱いたものである。

昨年9月26日に明治記念館で実施された参議院議員佐藤正久氏を「励ます会」では、多くの政治家や会員の前で、後援会長としての挨拶を述べていた。11月28日に実施された同じ場所での参議院議員宇都隆史氏を「励ます会」においても、後援会長として尽くしてくれた。

10月3日には、58期生の全国同期生会が九段下のグラウンドパレスで開催されたが、来賓として偕行社の状況について報告してくれた。12月16日の幹事会には欠席し、体調を崩したことを聞き、まさかこんなに早く逝くとは夢にも思われなかった。80歳を越しての連日の公務はやはり、彼の身体を蝕んでいたのであらう、惜しまれてならない。今は御冥福をお祈りするばかりである。当協議会の年頭の挨拶に「昨年の12月8日は、大東亜戦争開戦70周年でした。戦後、東京裁判史観、自虐史観、捏造された日本悪玉史観などが長く跳梁して国民精神を蝕んできましたが、当時の米国の対日戦略・工作や中ソの謀略・工作なども含めて冷静に考察、論評し直す傾向が内外で強まってきたように見えます」と述べられ、また、「当協議会は、御遺骨帰還、慰霊碑の維持、各地への慰霊参拝など多くの課

題を優先度を考慮しながら実施して参ります」と、理事長としての挨拶を述べておられます。会員一同力を合わせ、その御遺志を継いで、当協議会の目的、事業を推進しなければならぬと考えます。

○山本卓眞理事長追憶の記

公益財団法人偕行社

副理事長 深山 明敏

山本卓眞理事長の突然の訃報に接し、心からお悔み申し上げますとともに、御冥福をお祈り申し上げます。

私は、公益財団法人特攻隊戦没者慰霊顕彰会と公益財団法人偕行社において、公私にわたり温かい御薫陶を賜りましたので、今回、偕行社関係の追憶について寄稿し、尊敬する先輩に対する感謝の意を多少なりともお汲み取りいただければ幸甚に存じます。

山本様は、平成17年1月に偕行社長に就任されましたが、一言で表現させていただきますならば、「憂国の志士」というイメージであり、常に国家としての大戦略が無いことを憂えておられ、私もはそのご意図を具現する使命感を感じておりました。その基本的なお考えは、従来の同期生会連合会的な色彩を脱皮し、慰霊顕彰は当然のことながら、国家戦略的な見地から積極的に、

対外的発言・提言のできる態勢を整えるとともに、東京裁判史観の払拭などに取り組み団体を確立することでした。その最初のイベントとして、大東亜戦争終戦60周年記念講演会を平成17年11月に九段会館で開催し、小堀東大名誉教授に東京裁判の批判を、山谷参議院議員に教育問題を講演していただき好評を博しました。

新たな偕行社の方向の具体化のため、先ず故伊藤潔理事(53期)の下に元幹部自衛官を主力とする役割検討特別委員会を設置し、2年間の自由討議を経て骨格をまとめ、公益財団法人としての認定申請の基礎を固めました。

そして、新定款施行前から可能な事業は逐次実施する方針で、「近現代史研究会」は平成18年8月から、「安全保障問題研究会」は平成20年5月からそれぞれ公開講座を開始し、山本会長も常に出席されました。安全保障関係のテーマやマスコミなどで国益に反する内容があれば、適時反論するように指導されました。例えば、自民党憲法改正案「自衛軍」の名称に反対する意見書を提出したり、「自衛官増員」の必要性について提言しました。いわゆる「南京事件」については、東中野教授の著書のうち日本語版を世界各国の日本大使館に勤務する防衛駐在官に、

また、英語版を日本駐在の各国大使に贈呈いたしました。その他、北方四島の返還要求に関する歴史的根拠について、「史実を世界に発信する会」のご協力を得て、英文で世界中にアピールいたしました。なお、NHKテレビ番組の「坂の上の雲」の内容についても、疑問点を数箇所指摘されました。

公益認定の申請も、山本会長の積極的なご意向を受け、防衛省関係の法人では最初に提出して喜んでいただきました。内閣府の事務担当者も山本会長の団体ということで安心され、本当に親身になって相談に乗ってくださいました。

公益認定書を受領できた時の会長の笑顔をお忘れできません。機会あるごとに菊地事務局長、渡部事務局職員と私を功労者として労っていただき、ご馳走にも与る光栄に浴しました。一方、公私の別は極めて厳格に区別され、私的な飲食はすべてご自分で会計を済まされ、また、名門コースでのゴルフに誘われる際も、プレイ代は均等割でボールやドリンクを頂戴するのが常であり、恐縮しながらも楽しく過ごさせていただきました。短期間でしたが、尊敬する先輩の聲に親しく接することができ、感謝の言葉もございません。

山本会長のご遺志を継承し、偕行社の事業が国家の発展に貢献できるように、これからも努力し、ご温情に応えたいと存じます。どうぞ安らかに眠りください。

○山本卓眞代表理事の御逝去を悼む

専務理事 柚木 文夫

去る1月17日、私どもが杖とも柱とも頼む、当協議会代表理事・理事長の山本卓眞氏が逝去された。

日頃から、公私の別を厳しく峻別された故人の御遺志を体し、葬儀は近親者のみでしめやかに執り行われたとのことで、御逝去の報の公的発表は1月30日であった。享年86歳であられた。

平成16年夏、戦没者慰霊諸団体運営者の高齢化の傾向を危惧された故瀬島龍三氏の下で慰霊諸団体連合体設置の話し合いが始まったのが、当協議会設立のきっかけであるが、山本氏はその話合いの当初の段階から瀬島氏を補佐して、当協議会設立準備の中心的役割を果たされた。

そして、準備段階の紆余曲折を経て「緩やかな連合体」・慰霊団体協議会が創設され、初代会長に瀬島龍三氏が就任されたのが、平成17年7月であるが、平成19年9月には瀬島氏が逝去され、山本氏に次の会長をお引き受け

ただいた経緯がある。

当時既に山本氏は、富士通株式会社名誉会長の職のほかに、(財)国策研究会会長、(財)借行社会長、(財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会会長、靖國神社崇敬者総代など数多くの要職にあられ、大変お忙しい中にも拘わらず、慰霊団体協議会の役割の重要性を深刻に認識され、敢えてお引き受けいただいたことに、私も一同感激したことであつた。

私は、当初は財団法人の会長対理事長として、昨年4月以降は公益財団法人の代表理事・理事長対専務理事の立場

硫黄島遺骨帰還第2回特別派遣に参加して

事務局 岩田 司朗

この度、当協議会を代表して硫黄島遺骨帰還第2回特別派遣に参加した。

硫黄島の遺骨収容帰還をめぐるこれまでの経緯、硫黄島における日米両軍の激戦の様子、硫黄島における遺骨収容作業の状況については、当協議会の柚木文夫専務理事が、第1回特別派遣に参加し、会報『慰霊』第24号(平成24年1月1日発行)に詳しく紹介して

場で親しく御指導をいただいたが、大筋をきちんと押さえつつも、細部は任せていただく度量の大きさ、常に劳いの言葉を忘れない温かいお人柄に、つい甘えて勝手をさせていただいたこと、省みて汗顔の至りである。

取り分け、戦没者慰霊を公益目的事業項目に認めさせるための政府への要望、国立追悼施設建設に反対する政府への請願等の活動については、戦没者慰霊諸団体の声を代弁するつもりで拳を振り上げたが、先頭に立っていた山本代表には、辛い思いだったことと申し訳なく存する次第である。

おられるので、本稿では、今回実施された遺骨収容帰還事業のうち、特徴的な事項に絞って記述したい。

平成23年度硫黄島遺骨帰還第2回特別派遣は、平成24年2月6日結団式、7日硫黄島への移動、天山慰霊碑追悼式、8日から12日の間遺骨収容、13日撤収作業、帰還報告式、14日東京への移動までは、第1回派遣時と同じ日程で行われ、2月15日遺骨引渡式・解団式が今次派遣で新たに加わった行事となった。

派遣団員は総勢55名、このうち民間からの参加者は、日本遺族会、硫黄島協会及び小笠原村旧島民の会からの18

また、戦没者慰霊思想の普及、慰霊行事の実施、戦没者遺骨収容、海外慰霊碑維持管理等々に関する慰霊諸団体の協力など、当協議会の担うべき課題は多いが、それぞれにきちんと基本方針を定めてやれ、というのが山本代表の口癖だったが、方針も定まらぬままに日々の業務に流されている状況を、さぞ腹立たしくご覧になっておられたろうと思うと、誠に恥ずかしく、穴があつたら入りたい思いである。

掲げた大看板とは裏腹に、体力も財務基盤も乏しい慰霊団体協議会ではあるが、山本代表は、昨年1年のちに、

名、JYMA、国際ボランティア学生協会からの若い人達が16名、当協議会5名合わせて39名(うち男性31名、女性8名)で、官側からの参加者は厚生労働省(社会・援護局援護企画課外事室)職員9名、同省公募参加者(遺骨判定等)4名、小笠原村役場職員1名、陸上自衛隊員(不発弾処理等)2名、計16名(全員男性)であつた。

当協議会からの参加者5名は、前回同様、借行社、水交会、つばさ会、隊友会及び協議会事務局から各1名ずつ(全員男性)であつた。

遺骨収容作業は、前回の教訓を踏まえ、3個班を編成し、それぞれの班に

借行社、特攻隊慰霊顕彰会などの諸団体の代表を、軒並み、御自分の意思で退任される一方、「柚木君、これから僕は、慰霊団体協議会の代表一本に絞るからよろしく頼むよ」と言われた矢先の御急逝だった。

御逝去を悼み、心から御冥福をお祈り申し上げるとともに、戦没者慰霊諸団体との連携を密にしつつ、戦没者慰霊事業の永続と拡充に渾身の努力を傾注して参ることこそが、今は亡き山本代表の御遺志に應える道と信じ、その道を邁進いたすことをお誓い申し上げます。 合掌

は、本事業への参加を幾度となく経験され、そのノウハウを熟知されている、日本遺族会、硫黄島協会、旧島民の会の諸氏を中核とし、これに当協議会、JYMA、国際ボランティア学生協会等からの参加者が、ほぼ均等に加わり、経験者と未経験者、高齢者と若者、男性と女性がバランスよく配置された。

遺骨収容作業現場は、前回と同じく滑走路西側集団埋葬地であつた。初日は作業不慣れなこともあり、御遺骨収容に手間取ったが、二日目以降は次々と御遺骨が現れた。その状況は集団埋葬地であることを如実に示しており、別

遺骨があるといった、実に痛ましい惨状であった。間もなく戦後70年を経過しようとしている今日まで、表現は適切でないが、いわゆる放置されてきたことを思うと万感胸に迫るものを覚えた。米国は既に、戦後小笠原諸島の返還(昭和43年6月23日)に際し、全ての遺骨を持ち帰り、国立アーリントン墓地に埋葬したことを考えると、日本という国の無為無策が犯してきた罪が如何に重大であるかを改めて痛感した。

今回の収容作業では、189柱の御遺骨をお迎えすることができた。そして、前回の派遣で収容された御遺骨155柱と合わせて344柱の御遺骨が帰還された。帰還に当たっては、民間から参加した派遣団員39名と公募団員3名の計42名が、それぞれ御遺骨を捧持して帰還した。

2月14日13時、硫黄島基地では、海上自衛隊のラッパ隊が「国の鎮め」を奏する中、1個分隊の儀仗隊が、捧持された御遺骨に対し、捧げ銃の礼を奉じ、「海行かば」の曲の流れる中、海自・空自両基地司令以下基地隊員総員に見送られながら御遺骨を捧持して輸送機に搭乗した。

16時頃入間基地に到着、御遺骨捧持の団員が整列し、航空自衛隊のラッパ隊が「国の鎮め」を奏する中、同じく

1個分隊の儀仗隊による捧げ銃の礼を受けた後、本多内閣総理大臣補佐官、厚生労働省社会・援護局援護企画課外事室長、航空自衛隊入間基地司令以下基地隊員の出迎えを受け、御遺骨捧持の団員は、差し向けられたバスに乗り込んだ。

団員等に乗せたバスは、ゆっくりと飛行場地区から基地正門に向けて移動したが、この路上には途切れることなく、1000名以上の基地隊員が堵列して御遺骨をお迎えした。

この一連の行動では、胸に抱いた御遺骨が「やっと帰って来たか」と呟いておられるような気持ちで胸が一杯になり、目頭が熱くなった。

この日は、宿泊先のKKRホテル東京に準備された仮安置室に御遺骨をお納めし、翌朝、千鳥ヶ淵戦没者墓苑での御遺骨引渡式に臨んだ。

引渡式は、15日10時30分、牧厚生労働副大臣、本多内閣総理大臣補佐官、当協議会を含む各協力団体代表、国会議員、御遺族の方々が参列し、航空自衛隊・航空中央音楽隊が慰霊の曲を奏する中、肅々と団員が捧持してきた御遺骨が厚生労働省職員に手渡された。

手渡された御遺骨は、納骨堂前方に設けられた台に仮安置され、参列者全員による黙祷、本多内閣総理大臣補佐

官の挨拶の後、音楽隊が「ふるさと」の歌を奏する中、参列者による献花が行われた。

その後、厚生労働省職員が御遺骨を捧持し、厚生労働省霊安置に向けて千鳥ヶ淵戦没者墓苑を後にし、遺骨引渡式は終了した。

その後引き続き同墓苑において、硫黄島戦没者遺骨帰還団の解団式が行われた。田邊派遣団長の帰還報告、牧厚生労働省副大臣の挨拶、田邊派遣団長の解団の言葉があつて、解団式は終了し、派遣団の任務は滞りなく終了。ようやく10日間の緊張から解放された。

今次派遣を通じ、日本遺族会、硫黄島協会、旧島民の会の皆さんが1日でも早く、1柱でも多くの御遺骨を本土に帰して上げたいという切実な願いのもとに、黙々と御遺骨の収容作業に取り組んでおられる姿、戦争を全く知らないJYMAや国際ボランティア学生協会の若者が、この激戦地に自分の足で立って、日本の国家のため、民族のために尊い命を捧げられた現実を、全体で受け止めようとしている姿、そして、当協議会のメンバーとして参加された4名の方々の献身的な奉仕作業を目的に当たり、改めて戦没者への慰霊の念を深くした。特に偕行社から参加されたI氏は84歳の高齢を物と

もせず、若い人達に負けない働きをされ、また、御本人の戦争体験、戦史にまつわる豊富な知識の一端を紹介されるなどして多くの人達に感銘を与えられたことは、特筆すべき事であった。本派遣を通じ、厚生労働省のスタッフの皆様には、一方ならぬお世話を頂き、また、現地の海上自衛隊、航空自衛隊の皆様には力強い御支援を頂き、誠に有り難く、改めて感謝申し上げます。次第であります。



硫黄島からの御遺骨引渡式

東京大空襲と硫黄島

昭和20年3月10日子丑の刻、栄光の陸軍記念日は、忽ちにして紅蓮の焰と10万市民の血糊で朱に染められた。東京大空襲である。あれから早67年の歳月が流れた。今年も様々な形での慰霊追悼、平和祈念の催しが都内各地で行われ、マスコミも大きく取り上げた。

3月10日、墨田区横網町公園内の東京都慰霊堂では、午前10時から財団法人東京慰霊協会主催による、都内戦災遭難死者及び関東大震災遭難死者の「春季慰霊大法要」がしめやかに執り行われた。秋篠宮・同妃両殿下御臨席の下、石原慎太郎都知事を始め都議会議長、各区長その他の自治体や団体の代表者、遺族代表者等約350名が参列した。その他一般参拝者が堂の内外に溢れ、冷雨の中を早朝から午後まで引つ切りなしに訪れて、慰霊堂や納骨堂前の祭壇に献花、拝礼し、焼香の煙は絶えることがなかった。慰霊堂内及び資料館(復興記念館)内には、東京大空襲の絵画や写真、遺品その他の資料等が多数展示してあるが、年代が古いだけに鬼哭・妖気の迫る感があった。また、当時の警視庁の警察官で反骨のカメラマン石川光陽氏が撮影した大空

襲直後の街の惨状、特に道端に積み上げられた焼死体の写真(GHQの提出命令に抗して自宅の庭に埋めて守り通したという)等、目を覆うものがあった。

同慰霊堂等を管理する東京都慰霊協会の資料(戦災焼死者改葬事業始末記)によると、死者約10万のうち身元不明者は約90%に及び、しかもその総数8万9430人(35区内)のうち男女の識別可能な遺体は3万817人に過ぎず、残りの5万8613人は識別不能の遺体で、約66%に及んだという。男女の識別すらできない、黒焦げの死体あるいは焼け崩れてゴミと化した遺体であったという。これらの不明遺体は、被災直後に都内数箇所仮埋葬され(例えば錦糸公園1万3951体、猿江恩賜公園1万3242体、上野公園8391体、隅田公園6374体ほか)その後数年をかけて調査、焼骨して慰霊堂に納骨されている。慰霊堂にはその後の空襲犠牲者を合わせて10万5400体が納骨されている。また、同慰霊堂敷地内にある、東京都の「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」の中には「東京空襲犠牲者名簿」(現在第1巻、第34巻まで、7万9500余柱)が納められている。

東京空襲は昭和19年11月24日から終

戦まで百数次にわたって実施された。当初米陸軍航空隊第21爆撃団(司令官アーノルド大将、参謀長ノースタッド少将)のサイパンにある現地爆撃隊司令官ハンセル少将は、あくまでも正攻法の工場精密爆撃を主張し実行したが、所期の成果を上げることができなかった。業を煮やした爆撃団司令部は、かねて周到に準備していたM69型焼夷弾等による都市の無差別爆撃を実施すべく、突然ハンセル少将を解任し、かねがね無差別じゅうたん爆撃の実施を主張していたカーチス・E・ルメイ少将を司令官に任命し、その機を狙っていた。3月9日夕、サイパン、テナアン、グアム3島の基地を飛び立った34機のB-29大編隊は、途中なお死闘の続く硫黄島の砲炎を眼下にしつつ房総半島を北上して東京上空に達し、隅田川を挟む下町一帯約27平方kmの焼失予定区域に、高度平均2kmの低空から50フィートの間隔で約32万発2千トンのM69型焼夷弾及び爆弾を投下した。折柄の強風と火災による局地的暴風に煽られて火は忽ち燃え広がり、猛火となつて一帯を舐め尽くし、焼失地域は予定の約1.5倍、41平方km、首都の4分の1を焦土と化し、死者約10万、負傷者約12万、焼失家屋約26万7千という未曾有の大損害を生ぜしめた。

この東京大空襲の後、名古屋(3月12日)、大阪(3月14日)等大都市の大空襲が続き、更に全国の中大都市200以上が空襲や艦砲射撃による戦災を被った。沖繩では軍官民挙げての壮烈なる激戦が展開された。

本土防衛の防波堤たらんとした硫黄島の激戦も、3月17日の栗林忠道兵団長から大本営宛の訣別電報、同月26日の兵団最後の総攻撃による壮絶なる玉砕によつて終焉を迎えた。東京大空襲の惨禍を知つたであろう栗林中将が、その訣別電報に添えた遺詠「国の為重きつとめを果し得で 矢弾盡き果て散るぞ悲しき」に籠められた無念の想いが肺腑を抉る。

筆者は、今年2月6日(月)から15日(水)まで、政府派遣硫黄島遺骨帰還平成23年度第2回特別派遣団(厚生労働省職員等16名、民間ボランティア39名(男性31名、女性8名)総勢55名)に参加し、遺骨収容作業を行い、昨年11月29日、12月7日の第1回特別派遣団の収容分1555柱に、今第2回特別派遣団の収容分189柱、合わせて3444柱の御遺骨を捧持して帰還し、2月15日千鳥ヶ淵戦没者墓苑における御遺骨引渡式において、厚生労働省に御遺骨を無事引き渡すことができた。その作業を通じて硫黄島戦の凄絶さを、

まざまざと想起した。

硫黄島は、日本本土の爆撃を狙う米軍にとつても絶対に必要な戦略要地であった。東京から約1250km、サイパン、テニアン、グアム等の米軍戦略爆撃基地から約1100km、東京、名古屋、大阪への、ほぼ中間地点に硫黄島があつて、そこを占領すれば、B-29による日本本土爆撃は格段に容易となる。硫黄島に基地を置くことによつて日本本土は米軍戦闘機の行動圏内に入り、その援護によつて米軍はマリアナ基地のB-29による日本本土の昼間爆撃が可能となつたばかりでなく、爆弾搭載量も倍加され、戦果は益々拡大された。また、硫黄島はB-29の緊急着陸場となり、更に海上に不時着した搭乗員を救助する艦艇の中継基地となり、B-29搭乗員の安心と士気の高揚に好結果をもたらした。米軍の硫黄島攻撃開始2週間後に、B-29の最初の1機が千鳥飛行場に緊急着陸してから終戦までに延べ約2400機が同島に不時着し、搭乗員約2万7000名の命が救われたという。硫黄島制圧直後から米軍は元山飛行場を中心に滑走路(約2600m)の拡張工事を緊急に実施し、その際、周辺に散乱する日本兵の遺体を集めて滑走路西側の道路に面した窪地に埋葬した。米側の資料に

よると、その数約2千体という。それが今回の遺骨収容作業地である。

硫黄島における戦没者遺骨収容は、昭和27年に調査を行つて以来、平成23年2月まで82回に及び、日本遺族会、硫黄島協会、旧島民の会、JYMA等の民間団体の協力と防衛庁(省)の支援を得て、厚生労働省が実施しており、これまでに合計9537柱の御遺骨の帰還を果たしているが、防衛研修所戦史室著『戦史叢書・中部太平洋陸軍作戦(2)』によれば硫黄島戦における我が軍の戦死者数は1万9900名(陸軍1万2850名、海軍7050名)となつているから、未だその半数にも満たない状況である。一方、米国内にも満たない状況である。一方、米国内は、硫黄島での戦死者6821名の遺体を、一旦南海岸に近い千鳥飛行場跡付近の米軍墓地に埋葬し、戦後十数年を経過して小笠原諸島の日本返還(昭和43年6月23日)前に、全ての遺骨を掘り起こし、ワシントンの国立アーリントン墓地に埋葬したとのである。国家としての、戦没者に対する慰霊顕彰の在り方について、深く考えさせられるところである。

栗林忠道兵団長麾下の硫黄島守備隊将兵約2万1000名は、昭和20年2月19日の米海兵隊3個師団約6万1000名の上陸から3月26日の兵団長自

ら指揮する残存部隊約400名の総攻撃・玉砕に至る36日間にわたり、真に鬼神も哭かしのむる壮烈悲愴の奮戦敢闘を現じた。この間、米軍の損耗は、前記戦死者に戦傷者2万1865名を加えて2万8686名に上り、我が軍の、前記戦死者に戦傷者1033名(軍属を含む。生還)を加えた損耗2万933名を大きく上回つた。それほどの犠牲を払つても米軍にとつて硫黄島は日本本土空襲のために絶対必要な重要拠点であつた。

硫黄島の戦いは、地上対地下の戦いであつたという。栗林兵団長指導の下、総延長18km余に及ぶ地下道を巡らせた洞窟陣地とトーチカ陣地に拠つて頑強な抵抗を続ける日本軍に、さしも精強を誇る米海兵隊も苦戦の連続であつた。しかも日本軍は地下壕に拠つて戦つたばかりでなく、地上戦においても神出鬼没、夜襲に次ぐ夜襲により、米軍に多大の損害を与えた。硫黄島戦終末期の3月11日(東京大空襲の翌日)から4月3日までの米軍の損耗は戦死1067名、戦傷等2817名、合計3884名と記録されている。取り分け、兵団長自ら先頭に立つての、3月26日未明の最後の攻撃は、米軍も賞賛するように、最大の混乱と破壊を狙つた優秀な攻撃であつた。25日夜半、北拠点

にある兵団司令部壕(栗林壕・縦横に連絡壕をめぐらせている)から機を見て出撃した栗林兵団長以下陸海軍約400名の将兵は北西の漂流木海岸沿いに攻撃前進し、翌26日5時15分頃西部落南方の米海兵隊及び陸軍航空部隊の露营地を奇襲した。同地付近はそれ以後3時間にわたり修羅場と化し、米兵約170名を殺傷する戦果を挙げ、引き続き一部は元山、千鳥飛行場にも突入したが、我が将兵の大部は玉砕、硫黄島における組織的戦闘は終わった。

しかしなお、残存将兵は、その後も各拠点の地下壕に拠り、機を見てゲリラ攻撃を続け、米軍の爆破、火焰攻撃による死傷者続出するも降伏勧告に 응ぜず、6月下旬頃まで戦い続けたという(最後の兵2名が投降したのは、何と昭和24年1月6日であつたという)。数年前、NHKのテレビ番組で、来日した、東京大空襲に参加の元米軍パイロットに対するインタビューが放映されたが、同パイロットも、空襲による大火災の余りの熱さと異臭、突き上げる熱気流に操縦もままならぬ状態であつたと証言している。後に慰霊堂の悲惨な写真を見た元パイロットもさすがに目に涙を浮かべていたが、それでも彼は「自分達のやつたことが間違いであつたとはどうしても言えない。な

ぜならば、それはこの戦争で命を落とした戦友の死を無駄にするからだ」と言っていた。

一方、「戦果を上げるためにはどんなことでもやる。日本本土の焼土戦術は、結果として日本の降伏を早め、それによって彼我百万人の命を救ったことになるのだ」と言っていたルメイ将軍は、後年「もし我々が負けていたら、私は戦争犯罪人として裁かれていただろう。幸い私は勝者の方に属していた」と語っている。このルメイ将軍に対し、日本政府は、昭和39年、東京オリンピックの年に、航空自衛隊の育成に協力した功績に対してということで、勲一等旭日大綬章を贈っている。何という歴史認識の甘さ、敗者の卑屈とも取れる行為ではないか。空襲犠牲者の霊や遺族の感情を逆撫でする行為ではないか。

(飯田正能記)

ソロモン平和慰霊公苑再整備記念 追悼式挙行のご報告

公益財団法人

太平洋戦争戦没者慰霊協会

代表理事 秋上 眞一

無事、本公苑の再整備工事を完了し、昨年11月17日、記念追悼式を挙行しました。

天皇、皇后両陛下御下賜の生花、外務、厚生労働両大臣の献花、総理大臣の追悼の辞をもって日本人としての義務、尊厳を現すことが出来ましたのは、関係者多数の浄財提供と支援の賜物と心底より感謝するものです。

戦時中敵対した米国、英国、豪州、ニュージーランド、中国も追悼式に参列され、献花されましたのは意義深いものです。セントニコラス高等学校学生による賛美歌奉唱があり、格調ある追悼式となりました。日本とソロモン諸島国との更なる相互扶助、交友関係の発展を願い、沈黙を保つ英霊には安眠を願いました。昭和55年、当時の石巻市、石巻市教育委員会が寄贈された「潮音像」は、度重なる悪戯、盗難事故に遭遇しつつも、修理し、再設置することにより、東北災害の復興及び被災を契機に日本の再生に期待する象徴としています。

因みに、この「潮音像」は、ガダルカナルで戦死された、石巻市の至宝とされる彫刻家・高橋英吉氏の遺作であり、石巻市に現存する同一のブロンズ像と正対する位置に設置されたものです。ここに追悼式の模様を写真展示し、式典内容をご報告致します。

恒久的本慰霊施設の存続を図ります。維持管理費用の捻出に苦慮してまいります。ご進言、ご意見等お聞かせ下さい。(同協会会報第38号より)

○内閣総理大臣追悼の辞

本日ここに、ソロモン平和慰霊公苑再整備記念追悼式が挙行されるに当たり、先の大戦の激戦地であるこのガダルカナル島において戦禍に倒れた全の方々への御霊に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

昭和五十五年、どこまでも青い海と空に囲まれ、緑溢れるこの地に建立されたソロモン平和慰霊公苑は、旧日本軍将兵の御霊を鎮魂するのみならず、すべての戦没者の御霊の安らかなることを祈り、世界恒久平和への願いの象徴として、我々の心を照らしてききました。

それから三十余年、激戦の日々から六十六年の歳月を数えた本年、施設を再整備し、我々の祈りと願いを新たに

する機会を得たことは、誠に意義深い限りです。ソロモン諸島の御厚情と日本国内の関係者の多大な御尽力に改めて感謝申し上げます。

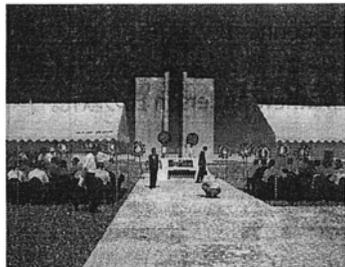
今なお、この海域や諸島で散った多くの方々の御遺骨が未だ故郷に帰ることなく眠っています。この地で尊い命を賭して祖国のために奮闘された英霊の皆様を改めて思いを致すとともに、御遺骨の御帰還に全力を尽くすべきことを誓います。

また、戦争の惨禍を二度と繰り返さないためにも、この地で生じた悲痛な歴史を風化させることなく、次の世代に語り継いでいくことが我々の大きな責務です。そのことを胸に刻み、我が国として世界の恒久平和の確立に努めてまいります。

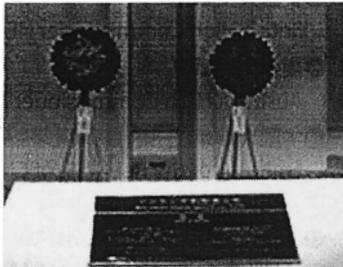
在天の御霊の安らかならんことをお祈りし、御遺族を始め関係者の皆様今後の御平安を祈念いたしまして、追悼の言葉といたします。

平成二十三年十一月十七日

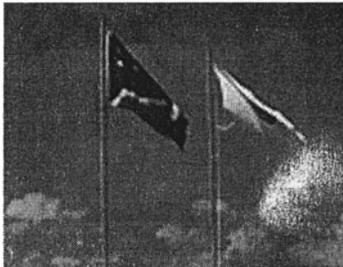
内閣総理大臣 野田 佳彦



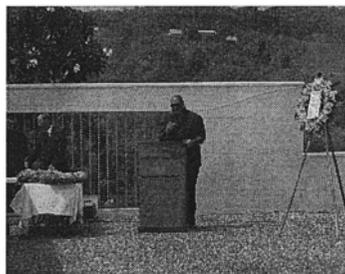
③ 式典の全景



② 天皇后両陛下下賜生花



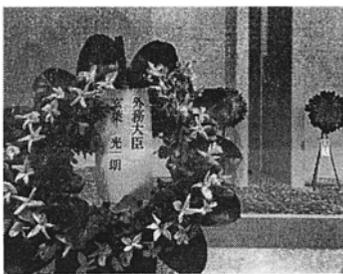
① 日中常時掲揚する国旗



⑥ 米国大使ご挨拶



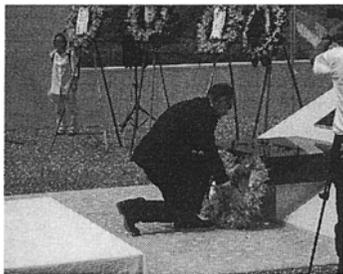
⑤ 厚生労働大臣小宮山洋子供花



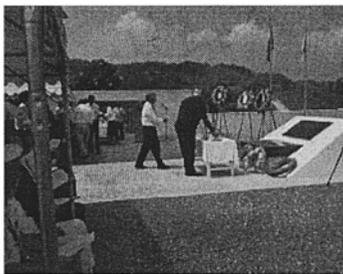
④ 外務大臣玄葉光一郎供花



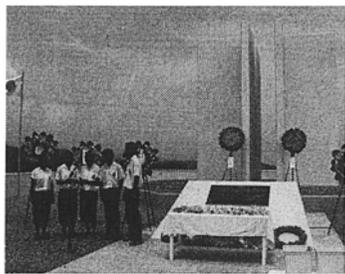
⑨ 中国大使献花



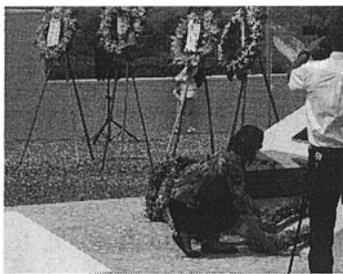
⑧ 英国大使献花



⑦ 米国大使献花



⑫ セントニコラス高校生賛美歌奉唱



⑪ ニュージーランド大使献花



⑩ 豪州大使献花



⑭ 夕食会・日本人の答礼合唱



⑬ 潮音像

協議会参加団体の紹介

⑭ NPO法人国民保護協力会

殉国の英霊

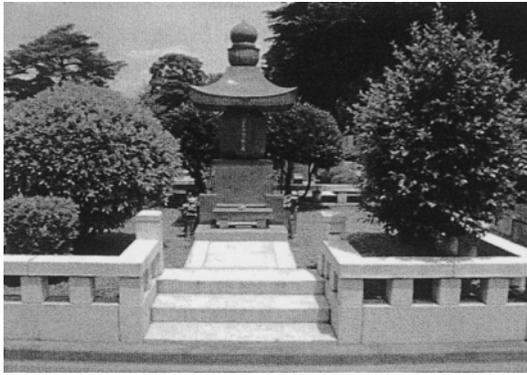
山下奉文大将の慰霊祭執行について

NPO法人国民保護協力会
会長 宮澤 作太郎



山下奉文大将

NPO法人国民保護協力会は、平成24年2月23日、さいたま市大宮の公園墓地「青葉園」に祀られる山下奉文大将の慰霊祭を執り行いました。
大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会の会員として、日頃から英霊の慰霊・顕彰に尽くす私共の活動に賛同されて参加された各位に誌上をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、英霊の慰霊・顕彰に新しい裾野を広めたいと



山下奉文大将墓所

の願いを込めて寄稿させていただきました。

1 青葉園と山下將軍墓碑建立の経緯

美しい緑に囲まれた公園墓地「青葉園」は、昭和27年、戦後日本に創設された最初の民営墓地であります。その墓園の中央に山下奉文大将の墓所があり、参拝者の祈りが捧げられております。

この墓園は、青葉園の先代「吉田亀治」氏によって造られ、二代目の吉田奉文氏（現・財団法人青葉園理事長）によって継承発展を続けているものがあります。

先ず、その由来を要約しておきたいと思えます。

吉田亀治氏は、昭和5年、陸軍第3聯隊に見習士官として配属されましたが、時の聯隊長山下奉文大佐の武人としての人格、識見、風貌に深い感銘を受け、信奉心と共に強い絆が生まれていったと言われています。

昭和6年、吉田亀治氏の長男が生まれた時に、「命名」をお願いしたところ、「良かったら俺の名前をつけてくれ」とのことで、亀治氏は喜んで「奉文」と命名しました。現在の二代目吉田奉文氏こそ、その人であります。

大東亜戦争の勃発に伴い、山下奉文中将（当時）は、緒戦のマレー・シンガポール作戦では第25軍司令官として勇名を轟かせ「マレーの虎」の異名を持つ英雄となり、その後満洲へ転任されてからも、同じ部隊での勤務こそなかったものの、お互いの友誼は益々深まっていったと伝えられております。

昭和19年10月、第14方面軍司令官としてフィリピン防衛の重任を命ぜられた山下大将は、赴任前に吉田亀治大尉（当時北朝鮮において防空監視隊長として軍務に服していた）に連絡を入れてこう語ったという。「現在の状態だと、いずれ日本は負けるだろう。その時は南鮮に移動せよ。北鮮にいては危

ない。ロシアに連れていかれることも覚悟せよ」と。

昭和20年8月15日、日本は終戦を迎え、吉田亀治大尉は、早速山下大将の言葉を実行することとなる。たまたま南鮮に向かう貨物列車に、必死の思いで、第744部隊の部下450名を乗せて発車させた。この迅速な判断が、正に命運を分けることとなる。

吉田亀治氏とその部隊は、この結果無事に復員することができた。一方、山下奉文大将は、マニラの軍事法廷で死刑の判決を受け、翌21年2月23日、ロスパニオス（マニラ東南40キロ）で絞首刑を執行されることとなる。

吉田亀治氏は、あの山下將軍の言葉がなければ日本への復員も自分の命もなかったかも知れないという思いを抱いていた。そこで、何としても命の恩人である山下奉文將軍の霊を慰めねばならないと考えていたという。

戦後、吉田亀治氏は、自分の所有する大宮の土地に山下將軍の墓碑を建立し、慰霊の誠を尽くしていたが、持ち前の企画力、実行力を發揮して、故人に永久に安らぎを与える由緒正しい公園墓地を目指して、昭和32年、財団法人青葉園を設立し、二代目吉田奉文氏はこれを継承発展させ、今ある雄大な公園墓地を造成したのであります。

今青葉園に鎮座する山下將軍の墓は、昭和29年10月に新しく建立され、しかもその前に吉田家の墓があつて、永久にお守りしているという尊崇の念が滲み出ております。

今や総面積15万平方米、2万5千区画にまで発展した青葉園には、「万靈追悼の三重塔」、「青葉慈蔵尊」、天然記念物「青葉園の藤」、「山下記念館」など参拝者の目を和ませる施設が整備され、緑に囲まれた清浄地として評価を高めております。

2 慰霊祭の執行

上述のように、山下奉文大将と吉田亀治氏との強い絆があつて、吉田家の意志によって山下將軍の墓所が建立され、永年にわたつて吉田家による慰霊が続けられていましたが、この事情を



知つた皆本義博氏（当時埼玉県郷友会長）は、英霊の慰霊こそ我々の務めだとの信念から、平成18年2月、吉田青葉園理事長、歩兵第3聯隊会代表松井幸男氏との3人の発起人方式で参加者を募り、「山下大将六十年祭」を企画開催されました。

この六十年祭には、偕行社副会長齋須重一氏、広島幼年学校代表奈良保男氏、日本郷友連盟副会長宮澤作太郎などの名前が残されております。これは今から6年前になりますが、その後埼玉県郷友会は解散してNPO法人国民保護協力会と合併し、同NPO法人は初代皆本会長から、二代目の宮澤会長



となり、現在に至つております。

○慰霊祭の実施状況

私共のNPO法人は、年度総会の議決を経て、英霊の慰霊顕彰を主要事業とし、公益財団法人大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会に加盟し、協議会の開催する行事に参加するとともに、自主的な慰霊行事も推進することといたしました。

先達の意志を継承して、英霊の慰霊事業に努めている団体であります。その主要な事業が、この度の「山下將軍慰霊祭」であります。

1 期 日 平成24年2月23日（木）
（山下將軍の命日）



2 慰霊祭 11時30分～12時

場 所 青葉園礼拝所
方 式 神式・埼玉縣護國神社山田信之宮司

次 第 最初に山下奉文墓所方向及び靖國神社方向に正対して拝礼し、国歌君が代斉唱の後、山田宮司の司祭により進行。

3 参列者 50名
直 会 12時15分～14時30分
場 所 青葉園三門會館
次 第 主催者側を代表してNPO

○法人国民保護協力会宮澤会長及び青葉園理事長吉田奉文氏の挨拶に続き、ご来賓代表として偕行社志摩篤理事長のご挨拶があり、次いで、英霊にこたえる会の堀江正夫名誉会長（97歳）の力強い音頭によって献杯が行われ、一同和やかな宴に移りました。

4 卓話「フィリピン防衛作戦と山下大将」 講師 大東 信祐氏
（偕行社月刊『偕行』編集委員）

宴の中で、大東講師による表題の卓話があり、山下大将の人となりや、比島作戦の推移、従容として死刑判決を受け、大義に殉じたお話に深い感銘を

受け、今次慰霊祭の目的は、十分に達成し得たものと、感謝申し上げる次第であります。

最後になりますが、私は挨拶の中で、戦史叢書・伊藤正徳著『帝国陸軍の最後』の冒頭にある次の一文を紹介し、英霊の慰霊顕彰こそ現下の国防意識高揚の根源であり、挙って取り組むべき国民的課題であると認識していることを訴え、青葉園における慰霊祭は毎年実施すべき事業であることをお約束いたしました。

「敗戦の結果、日本は三つの大きなものを失った。それは領土と世界一流の陸・海軍そして国民精神とである。この中で国民精神はやがて蘇るであろうが、蘇らねば、本当の亡国に落ちてしまう。

国民精神とは、一朝事あれば国のために一身を投げうつ軍人精神であり、そして国のために殉じた英霊に対する慰霊顕彰の心である」と。

末尾となりましたが、今回の慰霊祭に雨の中、遠路ご参加頂きました皆様

に厚く御礼を申し上げます、皆様のご清栄を祈念し、御礼と致します。
(3月1日記)

〈硫黄島からのJYMA派遣団員の手紙〉

硫黄島 慰霊祭神式



〒105-0014
東京都港区
芝2-5-19 TAビル4階

(財)大東亜戦争全戦御中
歿者慰霊協議会

平成23年度硫黄島遺骨帰還第10回派遣団は、神明から12時迄の真の骨返しの側面等での遺骨収容に先導して頂かれました。今年度第10回派遣団に参加したメンバーに新たなメンバーを加えてJYMA派遣隊も、総勢55名の派遣団の一員として期間中に189柱の遺骨をお迎えの任が出来ました。2月19日には、第10回派遣で収容した遺骨と共に、福ヶ淵戦没者墓苑へ捧持させて頂き、引渡式に臨みさせて頂きました。これからJYMAは国内外の遺骨で本工に力を入れるべく、取り組んで参ります。引き続き、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

末筆乍ら、皆様のご多幸とご健勝と
隊員一同に心よりお祈り申し上げます。

硫黄島 望台



特定非営利活動法人 JYMA 日本青年遺骨収集団

〒102-0076 東京都千代田区五番町2番地番町パレス303

URL: <http://www.jyma.org>

事務局からの報告等

一 平成23年度後期慰霊諸団体連絡会議の開催
当協議会では年2回、首都圏所在の当協議会正会員団体による連絡会議を開催していますが、平成23年12月15日(木)後期の会議を開催しました。

本会議には、今回から(公財)偕行社、(公財)水交会にも参加いただきました。

会議の概要は、次のとおりです。

1 開催場所

偕行社・3階会議室

2 会議出席団体

- 海原会、英霊にこたえる会、エラブカ東京都人会、神奈川県偕行会、旧战友連、国民保護協力会、埼玉偕行会、JYMA、水交会、全国ソロモン会、全ビルマ会、ソ聯強制抑留戦友会・東京ヤゴダ会、太平洋戦争戦没者慰霊協議会、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会、東京都郷友会、東部ニューギニア戦友遺族会、特攻隊戦没者慰霊顕彰会、陸士第五十七期同期生会、
- 3 主要協議事項
- ① 協議会の業務現況
- ア 合同慰霊祭の成果報告
- イ 会員状況等

ウ 新税額控除制度への対応
エ 戦没者遺骨帰還等事業

② 海外慰霊碑の現況と今後について
ア 民間建立海外慰霊碑の状況
イ 民間建立慰霊碑等整理事業につ

いて(厚生労働省外室資料)
ウ 海外慰霊碑について協議会に寄
せられた様々な意見

エ 協議会に課せられた命題
オ 協議会としての当面の結論

協議会からの説明に基づき、参加
団体による意見交換が行われたが、
特に海外慰霊碑の現状と今後につい

ては、国の施策にまつところが大で
あり、厚生労働省はじめ国の関係機
関に積極的に働き掛け、具体的な施

策に繋がる活動が必要であることが
再認識された。なお、協議会として
の今後の活動については、当会が示

した方針、個別指針を機軸とするこ
とについて意見の一致が図られた。

(注)「海外慰霊碑の現況と今後」に
ついての会議資料は、平成24年1月
1日発行の会報「慰霊」第24号10頁
以下に掲載。

二 理事会、評議員会の開催

3月12日(月)、平成23年度第2回
通常理事会在、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉
仕会会議室において、また、3月14日
(水)、同臨時評議員会が、偕行社会議

室において開催された。

両会議においては、事務局からの提
出議題について、熱心な討議が行われ、
いずれも事務局案が、原案どおり承認
された。

1 理事会

① 議案
ア 定款の変更

第2条(事務所)、第37条(名誉
総裁、相談役、顧問及び参与)

イ 平成24年度事業計画
ウ 平成24年度予算計画

エ 理事等人事異動

② 出席者

理事11名中10名及び監事2名が出席
した。

2 評議員会

① 議案
理事会と同じ

② 出席者

評議員14名中12名及び齋須重一副理
事長、柚木文夫専務理事が出席した。

新入会員及び寄附者(敬称略)

(平成23年12月1日)
平成24年2月29日)

【賛助会員】

(あいうえお順)
紀伊和憲 高橋 清
八木啓太

【寄附者】

石塚 健 一

会費納入のお願い

平成23年度会費(未納の方)及
び平成24年度の年会費納入にご協
力をお願い申し上げます。

なお、本会報同封の払込取扱票
は、賛助会員年会費納入並びに平
成24年度合同慰霊祭参加申込み及
び参加費納入を兼ねておりますの
で、ご確認の上、ご協力を賜りま
すようお願い申し上げます。

事務所の移転について

当協議会は、本年4月1日、事
務所を靖國神社遊就館内(地階)
に移転しました。

新事務所は、これまで同様(公
財)特攻隊戦没者慰霊顕彰会との
合同事務所です。

なお、当協議会事務所にご用の
方は、遊就館1階受付にて来会の
旨お申し出ください。事務所の者
がお迎えに上がります。

○事務所の新住所

〒102-0073
東京都千代田区九段北3-1-1
靖國神社遊就館内

電話 03-6380-8943
FAX 03-6380-8952
Eメール bck05197@nifty.com

当協議会会員ご入会のご案内

当協議会は、心ある皆様の浄財
によって運営されています。

戦没者慰霊事業の永続を希う多
くの皆様の、当協議会会員ご加入
を心からお待ち申し上げます。

皆様のご協力をお願いいたしま
す。

会員の区分と年会費は次のとお
りです。

一 賛助会員(本会の趣旨に賛同
する個人)
年会費 三〇〇〇円

二 賛助特別会員(特別ご芳志の
賛助会員)
年会費 五〇〇〇円

三 正会員(本会の趣旨に賛同す
る慰霊目的の法人・団体)
年会費 一〇〇〇円

四 特別会員(本会の趣旨に賛同
する法人・団体)
年会費 五〇〇〇円

協議会参加各団体の平成24年度慰霊行事予定(情報入手分のみ)

(各団体が主催する慰霊行事を主とし、協賛行事は割愛しています。)

(年月日)	(時間)	(慰霊行事名)	(場所)
(公財) 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会	24・7・7 式典12時 直会13時30分	平成24年度大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭	靖国神社 靖国会館
(公財) 海原会	24・5・27 10時	第45回予科練戦没者慰霊祭	陸自武器学校内・雄翔園二人像前
英霊にこたえる会	24・4・7 14時45分	第28回靖国神社の桜の花の下で(同期の桜)を歌う会	靖国神社大村益次郎像前
24・8・15 9時	第37回全国戦没者慰霊大祭	靖国神社	
24・8・15 10時30分	第26回戦没者追悼中央国民集会(共催・日本会議)	靖国神社境内	
神奈川県偕行会	24・4	神奈川県戦没者慰霊観桜会 (神奈川県戦没者慰霊堂平和の森奉仕会主催)	神奈川県戦没者慰霊堂
24・7		神奈川県戦没者慰霊堂 献灯(神奈川県主催)	神奈川県戦没者慰霊堂
24・8		神奈川県戦没者追悼式(神奈川県遺族会主催)	神奈川県戦没者慰霊堂
旧戦友連	24・4・29 11時30分	昭和殉難法務死者追悼・年次法要(共催)	高野山奥の院
近畿偕行会	24・4・29 11時30分	特攻勇士慰霊顕彰祭	大阪護国神社
24・10・28 11時		パール博士顕彰碑建立15周年記念行事	京都霊山護国神社
24・11・24 14時			山手奉文大将慰霊祭
特定非営利活動法人国民保護協力会	25・2		青葉園
特定非営利活動法人JYMA	25・3	JYMA慰霊祭・活動報告会	靖国神社

(年月日)	(時間)	(慰霊行事名)	(場所)
ソ聯強制抑留戦友会・東京ヤゴタ会	24・11・3 12時	第16回ソ聯抑留犠牲者鎮魂慰霊祭	千鳥ヶ淵戦没者墓苑
筑後地区偕行会	24・5・8 10時30分	久留米市戦没者慰霊祭	久留米市忠魂塔
24・8・15 10時40分		第20回戦没者慰霊平和祈念祭	久留米市忠魂塔
25・3・22 11時		爆弾三勇士慰霊祭	山川招魂社境内
(公財) 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会	24・5・28 12時30分	千鳥ヶ淵戦没者墓苑拜礼式	千鳥ヶ淵戦没者墓苑
24・5・28 12時30分		24年度秋季慰霊祭	千鳥ヶ淵戦没者墓苑
24・10・18 12時45分		遺骨引渡式	千鳥ヶ淵戦没者墓苑
24・7・25 3時		遺骨帰還協力及び出迎え・報告会	靖国神社
24・4・5 10時30分		東部ニューギニア戦友遺族会	靖国神社
24・9 25・2		特攻殉国の碑保存会	長崎県川棚町新谷郷・特攻殉国の碑前庭
24・5・13 14時		平成24年度第46回特攻殉国の碑慰霊祭	長崎県川棚町新谷郷・特攻殉国の碑前庭
(公財) 特攻隊戦没者慰霊顕彰会	24・4・8	萬世特攻慰霊碑慰霊祭(萬世特攻慰霊碑奉賛会主催)	知覧特攻基地戦没者慰霊祭(知覧特攻慰霊顕彰会主催)
24・5・3		第61回特攻平和観音年次法要	世田谷山観音寺
24・9・22 14時		第34回特攻隊戦没者合同慰霊祭	靖国神社
25・3・23 11時		田中静太郎大将顕彰碑参拝	同顕彰碑
姫路偕行会	24・8		山口県軍墓地
山口県偕行会	24・11	山口県陸軍墓地祭祀	県陸軍墓地
陸士五十七期同期生会	24・5・17 13時	靖国神社永代神楽祭	靖国神社
24・11 14時		戦没同期生慰霊法要	杉並区・善福寺